

令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立瓜破小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立瓜破小学校 令和7(2025)年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

今年度は、運営の計画の最終年度となる。これまで学校として取り組んできた目標に対して、未達成の項目に重点を置き、目標を設定したい。

「瓜破小学校安心ルール」を指導の基盤として使用し、教職員の間で一貫性のある指導をすることで一定の成果を得ることができている。一方で、様々な事情で学校に通うことが難しい不登校児童の改善においては課題が残っている。学校は児童の安全と成長を促進するために、いじめ対策や不登校支援を行い、指導方法や内容の改善を続けている。今後も、児童一人一人に合った指導を進めていく方針を継続したい。

学力においては、小学校学力経年調査の結果、第6学年が市平均を越え目標を達成したが、他の学年においては目標達成に至らなかった。今年度も算数科に焦点を当て、目標設定の基準を見直し、より児童の実態を明確に把握できるように取り組む。

教育環境の充実においては、教員と児童がICTの活用に慣れ親しむことで児童の学びの充実と教員の負担につなげることができている。しかしながら、依然として業務量の軽減には課題が残っており、更なる働き方改革の検討が必要である。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(令和5年度81.0%,令和6年度84.8%)

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(令和5年度2.77%,令和6年度0.0%)

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(令和5年度は33.3%改善傾向、令和6年度は0%改善傾向)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(令和5年度33.2%,令和6年度39.8%)

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和5年74%,令和6年度81.2%)

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(令和5年度71.9%令和6年度66.6%)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。(令和5年度70.0%,令和6年度71.0%)

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。

○ゆとりの日(18時セット)を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(年間720時間を超えない、1か月45時間を超える月を6か月まで、1か月100時間を超えない、連続する複数月の1か月平均80時間を超えない)を満たす教員の割合を80%以上にする。(令和5年度96%,令和6年度100%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。（令和 5 年度は 81.0%,令和 6 年度 84.9%）

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（令和 5 年度は 10 人中 3 人の 30%が改善、令和 6 年度は 0 %）

学校園の年度目標

○年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 100%にする。

（令和 5 年度 97.3%,令和 6 年度 97.2%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。

（令和 6 年度 4 年（-7）5 年（-6.3）6 年（+13.2）

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 73%以上にする。（令和 5 年度 86.6%,令和 6 年度 70.0%）

学校園の年度目標

○大阪市経年調査において算数科における「学力に課題の見られる児童」の割合をいずれの学年も 0.5 ポイント減少させる。（令和 6 年度 達成学年 1/4 （4 年 12.7% 増加 5 年 10.3% 増加 6 年 27.7 %減少）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（令和 6 年 1 月時点 1.4%）

○ゆとりの日（1 8 時セット）を週に 1 回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2（年間 7 2 0 時間を超えない、1 か月 4 5 時間を超える月を 6 か月まで、1 か月 1 0 0 時間を超えない、連続する複数月の 1 か月平均 8 0 時間を超えない）を満たす教員の割合を 8 0 %以上にする。（令和 5 年度 96%、令和 6 年度 2 月時点 100%）

学校園の年度目標

○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 6 0 %にする。（令和 5 年度 58.2%、令和 6 年度 62.7%）

大阪市立瓜破小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小学校) ○全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。(令和 5 年度は 81.0%, 令和 6 年度 84.9%) ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(令和 5 年度 86.6%, 令和 6 年度 70.0%) 学校の年度目標 ○年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 100% にする。(令和 6 年度達成学年 1/4 〈4 年 12.7% 増加 5 年 10.3% 増加 6 年 27.7 %減少〉)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1, 安全・安心な教育環境の実現】 ○瓜破小学校安心ルールを指導のよりどころにして、児童が安心して学校生活を過ごすことができるように指導を重ねていく。 ○児童が困ったときに、教職員集団全員で困り感を受け止め、丁寧に指導にあたる。	
指標 ○年度末の児童アンケートにおける「学校は安心できる場所だ」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90% にする。	
取組内容②【基本的な方向 2, 豊かな心の育成】 ○多様な特性への相互理解を深め、一人ひとりの自尊感情を育てていく。 ・芸術鑑賞の実施 ・校外体験活動の実施 ・性の多様性の学習の実施	
指標 ○年度末の児童アンケートにおける「いろいろなことを知りたい、やってみたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 80% にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

大阪市立瓜破小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71% 以上にする。 学校の年度目標 ○大阪市経年調査において算数科における「学力に課題の見られる児童」の割合をいずれの学年も 0.5 ポイント減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ○算数科の基礎学力の定着と向上を図るために、各児童の課題を明確にし、既習学習にさかのぼって、朝学習等を活用した補充指導をおこない、計算力が向上するように取り組む。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、算数科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。	
指標 ○算数科の授業研究・討議会を各学年で年 1 回以上実施する。 ○年度末の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より増加させる。 ○メンター部会や自主研修を学期 1 回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 ○運動を楽しみながら行える学習活動や取り組みを学期に一回以上行う。	
指標 ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71% 以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 ○朝ごはんの大切さを指導し、学校だより、栄養だより、ほけんだよりを通して家庭にも啓発する。	
指標 ○児童アンケートで「毎日、朝ごはんを食べていますか」という項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

大阪市立瓜破小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(令和 6 年 1 月時点 1.4%) ○ゆとりの日(18 時セット)を週に 1 回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 (年間 7 2 0 時間を超えない、1 か月 4 5 時間を超える月を 6 か月まで、1 か月 1 0 0 時間を超えない、連続する複数月の 1 か月平均 8 0 時間を超えない)を満たす教員の割合を 8 0 % 以上にする。(令和 5 年度 96%、令和 6 年度 2 月時点 100%) 学校の年度目標 ○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 6 0 %にする。(令和 5 年度 58.2%、令和 6 年度 62.7%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX の推進】 ○児童の心の変化や効果的な学習活動になるように、心理面・学習面など多面的に学習者用端末を活用する。 ----- 指標 ○年度末の児童アンケートにおける「いつもタブレットを使っている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度より増加させる。(令和 6 年度末 83.1%)	
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○教員が児童の前で健康で生き生きと働くことができ、児童一人ひとりに向き合う時間を確保するように取り組む。 ----- 指標 ○ゆとりの日(18 時セット)を週に 1 回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】 ○学校図書館、読み聞かせボランティア活動、読書ノートを活用することで児童が読書に親しむ環境の充実を図る。 ----- 指標 ○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。(令和 6 年度 62.7%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	